

イースター島には、なぜ森林がないのか

一人学びをするために、ワークシートに沿って学習を進めていると思います。しかし、一番大切にしてほしいのは、文章をよく読むということです。

何度も音読をし、スラスラ読めることができますか？また、意味の分からない言葉は、辞書を引いて調べていますか？授業では、必ず最初です。それをおろそかにしてはいけません。

時間をかけてでも、できるまで粘り強く取り組みましょう。

さて、イースター島には、なぜ森林がないのでしょうか？その答えを具体例を挙げて、説明がなされているわけですが、その説明のしかたに、筆者の独自の工夫があります。「論」とは、分かりやすく言えば、筆者の説明のしかたです。

筆者の鷲谷いづみさんは、まず、イースター島の紹介から入り、モアイ像の存在とその周囲に森林がない写真を掲載しながら、過去において、森林があったことを説明しています。

そして、「森林がなくなったのは、なぜか？」という問いかけを読者にして、一緒に考えていこうという気持ちにさせていきます。これが、説明文ではよく使われる手法です。

その答えを、ひとつひとつ具体例を挙げながら、説明を進めることで、まずまず読者を筆者の考えに導いていきます。

最後に、最も筆者が伝えたいこと（結論）を述べるのです。つまり、私たち自身が、「イースター島に森林がなくなってしまったいきさつ」から学び、どう行動するべきなのかを訴えるために、「論」が展開されているのです。

祖先を敬うために、「モアイ像」という石仏を作ったわけですが、その結果、イースター島で生活する人はいなくなり、子孫が繁栄しなくなった。つまり、未来がなくなってしまったということです。

石仏を作って祖先を敬う文化は、広く太平洋を伝わり、日本にまで渡ってきます。今、イースター島のモアイ像は、酸性雨や風化によって、ダメージを受け、痛んできています。それを守り、維持するための工事を請け負っているのが、実は、日本人の石工さん達だそうです。何かつながりがありますね。

改めて、説明文の読み方についてお話をします。

それが、次の通りです。まずは、それをじっくり読んで、実行していきましょう。

①目的に応じて読み取る。

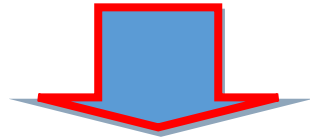
説明文とは、ある事からやものなどについて分かりやすく説明した文章です。まず、全文から内容を大まかに読み取り、目的に応じてくわしく調べていきましょう。

②内容の中心をとらえる。

説明文では、これから説明しようとする事からについて、読者に知らせようとする部分があります。この部分や「中心語句（キーワード）」に注意して読み取っていきましょう。

③比べながら考える。

説明文では、論理的に話を進めるために、2つ以上のものを例にあげて、筆者の考えやねらいを述べていることが多いので、それらをくらべながら読み取りましょう。



①段落の関係を考える。

文章は、内容によっていくつかの段落に分けることができます。段落どうしの関係を考えることで、文章全体の組み立てが分かり、読み取りやすくなります。

②読み取って考えをまとめる。

説明文では、文章の内容のだいたいを読み取って、短くまとめられるようになることが必要です。また、それをふまえて自分の考えをまとめていきましょう。

もう少し、くわしく説明をしたいと思います。

(1)「筆者の考え」と「具体例」を読み分けましょう。

①文章の中には、実際にあった出来事（具体例）と筆者の考えを述べている部分があります。

②具体例でない部分は、筆者の意見です。

★「具体例」には、段落ごとにその上に、ヨコ線を引きましょう。

(2) 対比を見つけましょう。

①異なることを対比させて説明する文章があります。

人間の子ども⇔動物の子ども 日本文化⇔外国文化 今の暮らし⇔昔の暮らしのように、対比とは、2つのものをくらべることにより、ちがいはっきりさせることを言います。筆者がどのようなことを伝えようとして「対比」を用いているのかを考える必要があります。

②対比させることによって自分の意見をはっきりさせましょう。

筆者は、自分の考えに説得力を持たせるために、あえて反対のことをとりあげるのです。文章全体を理解するには、何と何が対比されているのかを正しく見きわめ、筆者の立場がどちらの例にあるのかを考えながら読み進めましょう。

★「一方～」「これに対して～」などの対比を表すことばを（ ）で囲み、その前後の部分にヨコ線を引きましょう。

(3)「順番ことば」を手がかりにして内容を整理しましょう。

①文章中に順番を表すことばが入っていることがある。

一番目＝第一に、最初に、はじめに、まず、
二番目＝第二に、次に、もうひとつ、さらに、

②順番を表すことばによって、具体例や筆者の考え、そしてその理由が整理されています。だから、順番ことばに、印をつけることが必要になります。

★「順番ことば」を（ ）で囲み、そのあとに続く部分にタテ線を引きましょう。また、いくつかならべて書いてあるときには、①②③の番号をつけてタテ線を引いておくといいですね。

(4)「筆者の考え」を「理由⇒結論」の形にして考えてみましょう。

①「筆者の考え」の部分は、さらに、「理由」と「結論」に分けられます。

「結論」とは、「筆者の考えの行き着くところ」です。一方の「理由」は、「どうしてその結論になるのか」ということです。相手に、自分の考えを分かってもらいたいときには、しっかりと理由も伝える必要があるのです。

②説明文の読解で一番大切なのは、「理由」を正しく理解することです。

筆者は、具体例をあげたり、別の例や考えと対比させたり、順を追って分類や整理をしたり、さまざまな工夫をこらして結論に行き着くすじみちを説明します。そのすじみちの最後の部分が「理由」なのです。

★「理由」には、波線や太いタテ線を引いて、はっきりと目立たせましょう。

(5)「意味は同じでも、別のことば」には、注意しましょう。

①別のことばも「キーワード」になります。例えば、「少年」ということばが、「坊ちゃん」や「その男子」のような別のことばで言い表されている場合もキーワードと考えなければなりません。

②筆者がことばを使い分けるのには、大切な意味があるのです。

一人の男の子が場面や相手によって呼び名が変わっていることがあります。その違いから、それぞれの人少年のことをどのような気持ちで見ているのかが読み取れます。同じもののことを異なることばで表すには、何か意味がこめられているからです。

★何度も出てくることばだけでなく、同じ意味を持つ違うことばどうしても線をつないでおきましょう。